平成28年3月1日発行 第237号

長崎ほいくだより

No.237
2016.3

発行：一般社団法人　長崎県保育協会　長崎市茂里町3番24号　長崎県総合福祉センター 3F　TEL.095-846-8871

発行人　西川義文
編集人　間瀬光徳
購読料　一部55円

以心伝心の喜び
～生きている証を分かち合うこと～

通じ合う幸せ

電車の中でふと感じる強い視線…。目を向けると、ベビーカーのコックピットの上から、ぷくぷくした小さな天使が興味深そうにこちらをじっと見ている…。

こちらが微笑むと、初対面の天使もニコッ。笑顔を交わすことで、ふと何か根本的な喜びを共有できた瞬間は幸せですよね。

私にとって音楽を演奏すること、聴くこと、教授することは、このような心の交流を、音楽を通してたくさんの人と共有し、通じ合おうとする試みです。

私にとっての音楽

私は4歳からピアノを始めました。初めはただおもしろそうで始めたのですが、続けるうちに、次第に自分の心の中にある情緒や感情を外へ向かって表現し、心の中と外とを通わせ呼吸するような大切な行為になっていきました。

誰かにわかってもらいたいと内心思っているけれど、親にも友達にも言えないような複雑な気持ちや想い。それは言葉ではうまく表せないけれど、ピアノでなら表現できる…。私にとって音楽はずっとそのような存在でした。

気持ちに近い曲を、感情移入しながら弾き聴くうちに、まるで音楽が自分の気持ちを分かってくれたような感覚になり、救われるのです。それは芸術音楽が、人間によって絶妙に楽譜に置き換えられた、人の心や人生の一片そのものだからでしょう。

地球に与えられた大気の振動＝音に感動することは、この星に生きている証ともいえます。

世紀を超えた対話

クラシック音楽の作曲家の多くは、百年以上も前に生きていた人たちです。偉大な芸術家たちは、心をありのまま楽譜に残す術を知っていました。それを今読み取り、共感しながら甦らせて、同じ空間にいる人たちの心に直接シェアするというのは、世界中の人と簡単に情報をシェアできるSNSとはまた次元の異なる、時空・国境・世代を超えたコミュニケーションです。数世紀前の人が何を伝えたかったのか、楽譜や資料や経験から想像しながら、ふさわしい音の出し方つなげ方を探していきます。

クラシックで用いる楽器もまた、人間の声や心を表現するために工夫して作られています。魂のこもった本物の演奏を、マイクやスピーカーを通さず直接同じ空間で聴いて、その波動を全身で浴びるとき、時空をも超えた生の心の交流が、バーチャルにではなくその場に起こります。これは私たちの心の最も深い所に触れる、芸術音楽の圧倒的な魅力です。

「難しそう」「敷居が高い」というイメージを持たれがちなクラシックですが、本当に良い音楽は、頭で理解したり言葉で説明したりしなくとも、心で直接「感じられる」ものです。本当に美味しいものを誰でも理屈抜きに「美味しい」と感じるように。

料理を囲んで「美味しいね！」と感動を分かち合うことは、作る人にとっても食べる人にとっても嬉しいことですよね。それがどんな素材を使ってどんな技法を使って作られたのかと分析するのは、専門家や知識を深めてより楽しみたい人にとっては有益でしょうが、それは各人の自由です。音楽も全くそのようなものです。

耳を澄ます

レッスンでお子さんの演奏に耳を澄ましていると、言葉ではなかなか思っていることを口にすることの難しい人見知りなお子さんでも、ピアノの音からは、その子なりに感じていることと、言いたいことがあふれるように聞こえてきます。

レッスンを通して「これは春の感じだと思う？夏の感じだと思う？何色だと思う？」「もっと思い切って出してみてごらん」「ほら、今音が変わったの自分でわかった？すごく心に伝わってきたよ」と、心の情景を音楽に投影して分かち合いながら、お子さんそれぞれの心の中に隠れていたものを引き出していく場に立ち会っていると、付き添ってこられたお母様方がとても感激されます。毎日見守り育ててこられたお子さんの心の奥にあった気持ちが、音に乗ってあふれてくる様子を目の当たりにして感激されるお母さん。そんなお母さんの様子に嬉しそうにはにかんでいるお子さん…。通じ合う何かに胸を打たれる瞬間です。

小さなお子さんと日々向き合っておられる読者の皆さまも、言葉にならない相手の心の色々なサインにアンテナを張り、テレパシーを送り合うような感覚でたくさん以心伝心していらっしゃることでしょう。また時には伝わらないもどかしさ、相手の想いがわからないという悩みにもぶつかりながら、試行錯誤を重ねていらっしゃることと思います。

相手の目線を想像して歩み寄ることで通じ合えたときの喜びや、深い所でちゃんとわかっている、わかってくれているという安心感、心のキャッチボールの重なりから生まれる信頼が、もっともっと的確に愛情を伝え合いたいという気持ちに向かわせる原動力にもなるのかもしれません。

目の前にいる人よりも液晶画面を見つめる時間がどんどん増えている今だからこそ、同じ空間で相手の心に耳を澄ましながら、真心を込めて伝え合う時間を噛みしめていきたいですね。

ピアニスト　本山（もとやま）　乃弘（のりひろ）

【プロフィール】
1983年福江生まれ、佐世保出身。東京藝術大学音楽学部附属音楽高校及び同大学卒業。2008年より渡仏し、2012年パリ・エコールノルマル音楽院の職業高等器楽演奏家資格を審査員満場一致にて取得。フランスと日本を中心に演奏活動や後進の指導を行っている。

公式ウェブサイト
http://norihiromotoyama.com

虹

2016年がスタートしたと思っていたら、もう3月。卒園シーズンとなり、慌ただしい中にも寂しさを感じる季節となりました。わが園では、毎年卒園式が終わってホッと一息ついた翌週、年長児と近くの将冠岳に、おやつを持って登山へ出かけます。佐世保市の西部、弓張岳と但馬岳と寄り添うようにそびえ立つ将冠岳。薄日差す杉木立の急坂を、滑ったり転んだりしながら登ります。まさに舗装されていない道を進む醍醐味を味わいつつ、心も体もしっかり成長した年長児と、思い出話をしながらの最後の散歩はとても楽しいものです。険しい斜面を友達の手を引っ張り上げ、背中を押し合い、ようやくたどり着いた頂上は、木々が大きく成長し、視界はあまり良くありません。しかし、足場が悪い岩場を登ると、九十九島が一望でき、この上ない爽快感、充実感が得られます。そこで仲間と食べるおやつはまた格別のようです▼弓張岳（364メートル）を見下ろすことができる将冠岳（445・1メートル）は、メジャーではありませんが、昔の姿のままひっそりと佐世保を見守っています。子ども達に郷土を愛する心を育んで欲しいという願いで続けている登山ですが、揺るぎない自然の頂に、励まされているのは私自身かもしれません。日々変化する保育情勢に左右されることなく、将冠岳のように、いつまでもーんと変わらず、子ども達の成長を見守り、ほっこりできる居場所となる園でありたいと願います。

（Y・Y）

長崎ほいくだより

発行：社団法人　長崎県保育協会　長崎市茂里町3番24号　長崎県総合福祉センター 3F　TEL.095-846-8871

購読料　一　部　55円

続きは、お買い求めいただきご購読下さい。
お問い合わせは、保育所（園）または長崎県保育協会までお願い致します。

2ページ目以降の内容をご紹介

■ **つれづれ**

園長先生等のリレー式コラムです。保育に対する思いや考えなどを文章にしています。

■ **保育のひろば**

- 地域との交流

  各保育園の近隣の交流状況など画像を添えて紹介します。

- ランチタイム

  給食やおやつ、食育等の取り組みを情報提供致します。

- 保育園めぐり

  県下の保育園を地区別に順番で紹介しています。

■ **すこやかなそだち**

保育の専門家が、プロの視点で子育てに関する様々なテーマに基づいて書き下ろす連載コーナーです。

■ **読者のひろば**

子育ての思いやエピソードなど地区別の保護者に書いていただくコーナーです。

■ **であい**

保育士に保育に対する質問を投げかけそれに答えるコーナーです。

■ **ＺＯＯ夢イン　家族のお出かけスポット情報**

編集部一押しの地元のお出かけ情報です。家族向きのお出かけに参考になります。

■ **つぶやき**

■ **わんぱく写真館**

子ども達の日頃の保育園における活発な活動の写真を掲載しています。

■ **え？！絵本**

子ども向けのおすすめ絵本です。わかりやすく解説しています。